

自然を描く魁夷と いだくを描く辰雄

は離れ、分野も異にするが、芸術の最高峰に立つおふたりが響き合う様が大好評であった。

あつた。

兎にも角にも高山辰雄は、人のいのちの根源に迫ろうとするその作画態度が、心ある若い画家達の尊崇の的であつた。

愛知万博開催の平成17年には、私どもの念願であつた東山魁夷展が開催出来た。残念ながら先生は、平成11年5月に亡くなつてしまわれたが、すみ夫人が熱心に応援してくださり、その年の7月に万博のテーマにも通ずる「自然とともに」と副題を付して開幕した。

先生の風景開眼となつた記念すべき『残照』、代表作『道』、北欧の『白夜光』、ドイツ・オーストリーの『雪の城』、京洛四季の『花しょうじ』点を加え、先生の全画業を俯瞰出来る内容とし、「その深遠なるまなざし」と副題を付して、平成10年9月に開催した。開会式、レセプションにも来ていただきて盛大に開幕出来た。

何はともあれ東山魁夷は、一貫して風景画家と称されて、日本人の最も広い層にしみじみと共感を呼ぶ国民画家としてその評価は永遠であろう。（メナード美術館 顧問）

メナード美術館は、開館してしばらく「現代作家シリーズ」と銘打ち、田淵俊夫、島田

章三、吉田善彦、大沼映夫と隔年で特別企画展を開催した。開館十周年的節目には、当時86歳、日本画の巨匠・高山辰雄先生に個展をお願いした。人物画の代表作『いだく』、風景画の代表作『穹』などに、メナードコレクション7点を加え、先生の全画業を俯瞰出来る内

容とし、「その深遠なるまなざし」と副題を付して、平成10年9月に開催した。開会式、レセプションにも来ていただきて盛大に開幕出来た。

その会期中に特筆すべきことがあつた。その頃ニユーヨークで活躍する天才ヴァイオリニスト五嶋みどりさんが来日し、尊敬する高山先生と対談、又彼女のたつての希望から、来館して展示室で演奏された。この模様が収録されテレビ番組となつて放映された。年齢

寿

辰雄

十周年記念に、ご縁の深い先生方に“寿”的一字を揮毫してもらった。中でも高山辰雄筆の寿が素晴らしい、記念のミュージアムグッズ（風呂敷）を使わせていただいた。

メナード美術館開館25周年記念

コレクション名作展I

現代日本1950—2012

2013年2月17日まで開催